

## 2. プログラムの企画・立案

### (1) プログラムとは

#### プログラムの意味

「プログラム」という言葉も様々な意味で用いられています。本ガイドブックでは、「学習目的を達成するために、複数の体験活動を組み合わせたもの」とします。

下図は、「協調性をはぐくむ」という「目的」を達成するために、「登山」「野外炊事」「沢登り」という「体験活動」を組合せた1泊2日の「プログラム」です。

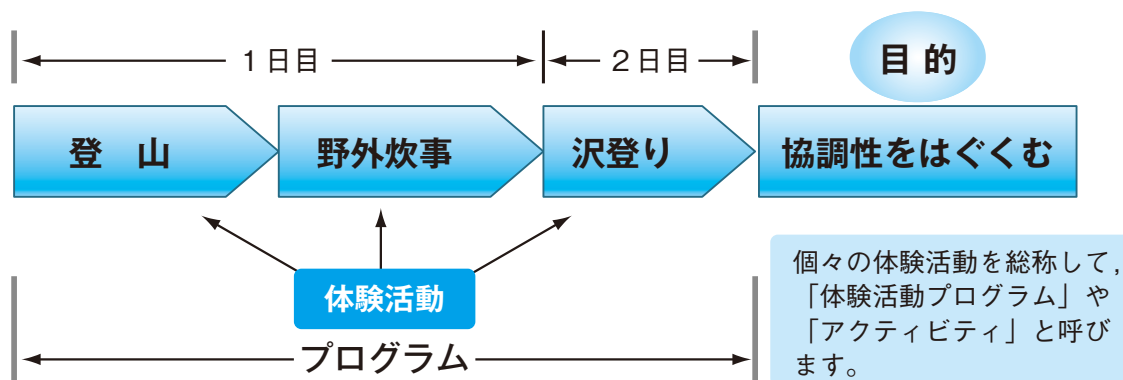


図 プログラムとは

#### 諫早自然の家の体験活動プログラム

諫早自然の家では、次の体験活動プログラムができます。各体験活動プログラムに必要な道具等は、諫早自然の家が準備しています（ただし、クラフトの材料は購入していただきます）。

##### <野外活動プログラム>

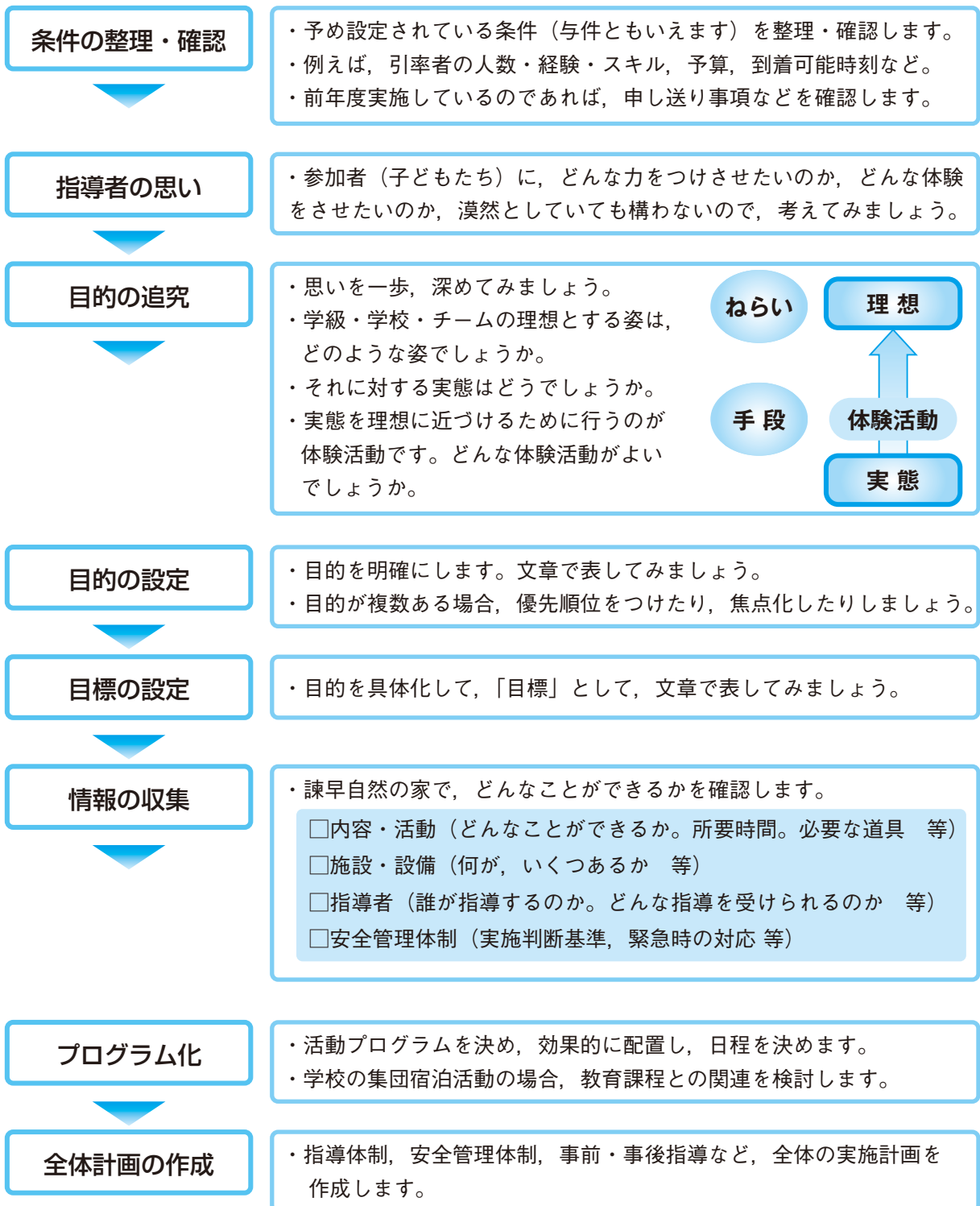
1	野外炊事	10	フィールドアスレチック
2	沢登り・沢歩き	11	ディスクゴルフ
3	登山	12	グリーンアドベンチャー
4	諫早コミュニケーションアドベンチャープログラム	13	星空観察
5	オリエンテーリング	14	キャンプファイヤー
6	ウォークラリー	15	ナイトハイク
7	ハイキング	16	フィールドビンゴ
8	マウンテンバイク	17	イニシアティブゲーム、課題解決ラリー
9	森のハウスづくり		

##### <野内活動プログラム>

1	課題解決ラリー	6	プラホビー
2	室内オリエンテーリング	7	竹とんぼ
3	キャンドルのつどい	8	紙ごま
4	焼き板	9	室内スポーツ・レクリエーション
5	ペンダント		

## (2) プログラムの企画・立案の手順

諫早自然の家で集団宿泊活動などを実施することを想定した、企画・立案の手順の一例を提示します。



### <プログラム相談>

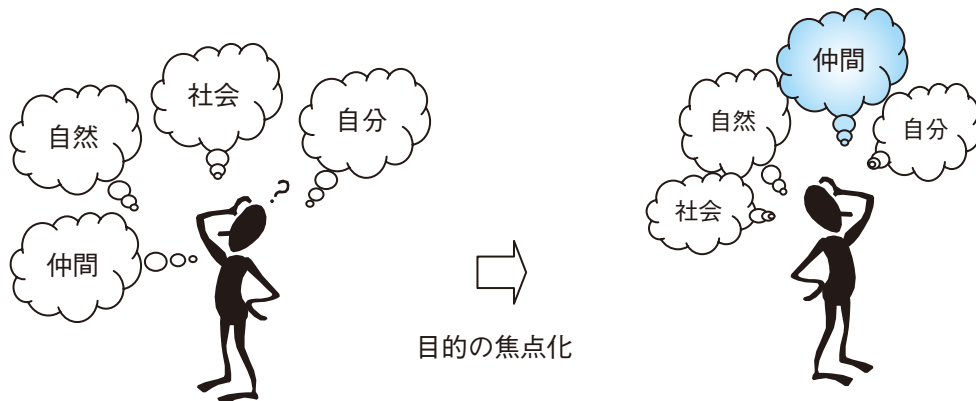
・ 諫早自然の家では、利用団体の皆様がプログラムを企画・立案する際に、必要な情報を提供したり、助言を行ったりするプログラム相談を行っていますので、ご活用ください。

### (3) プログラムの企画・立案のポイント

#### 目的を焦点化する

集団宿泊活動のねらいを、「自然教室を通じて、自然に親しむ心情や仲間を思いやる気持ちなど豊かな心を育てるとともに、困難な活動をやりきることで達成感を味わい自信を持つなど自己肯定感を高める。また、学級・学年の凝集性を高める」と設定したとします。

どれも、集団宿泊活動の持つ教育効果を表しています。しかし、限られた日程で教育効果を高めるためには、「あれもこれも」よりも、「これは」というように焦点化することが有効です。どれか一つに絞るというだけではなく、主目的と副次的な目的というように優先順位をつけることでもよいでしょう。



#### 目的に応じた「活動」(内容) を選択する

目的を達成するために、効果的な活動プログラムを選びます。例えば、下図のように、同じ目的であっても、複数の活動プログラムを想定することができます。

では、質問を一つ。「登山を計画していますが、雨天プログラムは何にしますか」。

実際には、屋内でできる焼き板などの創作活動を実施されることが多く見受けられます。しかし、目的に応じた活動プログラムを選択するという視点で考えると、目的が「自然に親しむ」ならば、「創作活動」でよいのですが、「協調性をはぐくむ」が目的ならば適当とはいえません（ただし、焼き板を協力してやるのならば別です）。

「自然に親しむ」という目的であれば、(危険度が低い範囲で) 雨の中で過ごし、雨のにおいをかいたり、雨にけむる景色を見たり、雨水が樹木をつたって落ちる様子を観察したりといったことも考えられます（諫早自然の家周辺の「森の散策」という活動プログラムが適当です）。

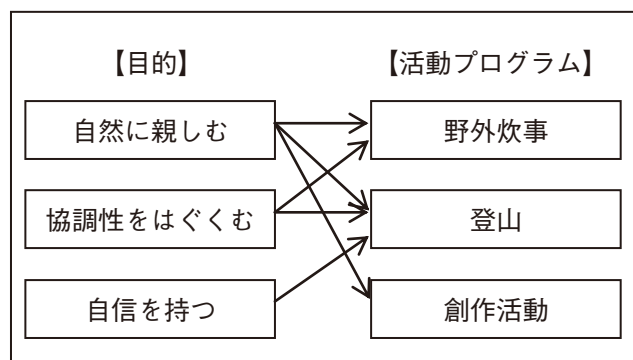


図 目的と活動プログラム

## 目的に応じた「指導方法」(やり方) を選択する

図の「野外炊事」には、「自然に親しむ」と「協調性をはぐくむ」という2つの目的が想定されています。同じ活動プログラムでありながら目的が異なるということは、「指導方法」(やり方) を選択(工夫)しなければならないということになります。

### ケース1「自然に親しむ」ことを目的とした野外炊事の指導方法(やり方)の例

- ・使用する水の量を少なくするように工夫させる。例えば、水道を使わずにペットボトルに入れた水を渡し、何リットル使ったかを量る。
- ・野菜の皮や残ったご飯の量を量る。

### ケース2「協調性をはぐくむ」ことを目的とした野外炊事の指導方法(やり方)の例

- ・グループで目標を立てる。
- ・野外炊事の後に、目標をどの程度達成できたか、その要因などを話し合う時間を設定する。
- ・ご飯をつくることが目的ではなく、グループでどうやってつくったか。つくる過程で、グループの中で起こっていたことが重要になってきます。

## ストーリーをつくる

プログラムを立案する上で、重要なことの一つに「ストーリー」をつくることがあります。参加者(プログラムを実施する者)の「やらされ感」を軽減し、参加動機を高めたり学習目的を達成したりするために必要なことです。

- ◆難易度(技術に加え、精神的・肉体的な負荷)の低い活動プログラムから、高い活動プログラムへ
- ◆楽しい活動プログラムから、課題を解決する活動プログラムへ
- ◆全体で実施する活動プログラムから、グループや個人で実施する活動プログラムへ
- ◆課題を解決する活動プログラムから、活動を通して発見したことや学んだことをまとめる活動プログラムへ
- ◆活動プログラムの成果や課題を、次の活動プログラムに活かす など

## 時間的なゆとりを持たせる

活動時間を予め設定することは必要です。しかし、余裕を持った日程にしないと、時間に追われ、参加者(子どもたち)を追い立てることになってしまいます。

「協調性をはぐくむ」ことを目的とした野外炊事であれば、参加者が、試行錯誤したり失敗したり、トラブルを解決する話し合いの時間を持ったりすることができるようゆとりある時間設定が必要になるということです。時間が足りずに、指導者が手伝って出来上がった食事より、苦勞して自分たちでつくった食事の方が、喜びや達成感が大きいでしょう。